



「来ませ見せましょ鶴崎踊
いずれ劣らぬ花ばかり」



①「左衛門」：軽快な踊りが特徴です。②「猿丸大夫」：優雅でしなやかな手先や動きが特徴です。
③「唄」（主旋律）と「はやし詞」（合いの手）。太鼓や尺八・三味線・横笛・胡弓を奏でる「はやし方」が交代しながら演奏し、踊りを支えます。④踊りの輪は鶴崎公園グラウンドで披露されてきました。⑤大正時代の様子。⑥各団体手作りの、個性あふれる衣装も見ものです。⑦衣装制作の様子（寺司自治会）。⑧鶴崎小学校の踊り練習。⑨地域の人は踊りや唄の練習を重ね、次の世代に伝統を伝えています。

誇りをもって踊り継いでいく

8月24日(土)の本場鶴崎踊大会には、多くの人にお越しいただきたいと思っております。

鶴崎踊は1560年、戦国時代に大友宗麟のもとへ戸次鑑連が京都から踊り子を招いて踊りを披露したことが始まりです。その後港町であった鶴崎の地で踊られるようになり、江戸時代に熊本藩になった際も「鶴崎踊」の名前が残りました。皆が誇りをもって踊り継いできたからです。保存会創設100周年は、通過点の一つ。踊り、楽器、唄、それぞれが持つ誇りや伝統をしっかりと後世につないでいく、これが保存会の思いです。

鶴崎踊にはおよそ460年の歴史があり、国選択無形民俗文化財に登録されています。これは、先人たちの熱い思いがあつてこそ。保存会の研修部では、大分を代表する踊りだという気持ちで日々踊りの指導や研修会を行っています。

地域での活動も盛んです。鶴崎踊では自治会ごとに衣装を手作りし、その衣装で踊りを披露します。準備から皆が協力してくれるのがありがたいことですし、地域の団結につながりますね。鶴崎踊が長く続いていく理由の一つでもあると思います。

一方で、後継者の確保は課題の一つです。踊り続けていくためには若い世代の力が必要になります。現在は小学校での踊り指導や歌い手の継承を図るための「唄コンクール」なども行っています。参加した子どもたちが大きくなってから、地域で踊りや唄を伝えていってほしいと思っています。



8月24日(土)
午後7時15分～9時30分
鶴崎駅入口交差点
～中鶴崎二丁目交差点(国道197号)

問 本場鶴崎踊大会実行委員会
(鶴崎支所内) ☎527-2111



本場鶴崎踊大会の様子を動画で紹介しています。▶

※午後9時から乙津川(鶴崎中学校前河川敷)で花火を打ち上げます。
※雨天の場合は中止します。
※当日は交通規制(午後6時～10時)が行われます。ご協力をお願いします。



鶴崎おどり保存会創設
100周年記念

本場
鶴崎踊大会

— 今宵、ひと夜の花絵巻 —

しっとり優雅な「猿丸大夫」と軽快なテンポの「左衛門」の二つからなる、大分の代表的な踊り、「鶴崎踊」。横笛や胡弓などの囃子の音と唄に合わせ、色とりどりの華やかな衣装で踊るさまは、まさに豪華絢爛な一夜の花絵巻、見物に訪れた観衆の心をひき付けます。

